

2002年5月29日

Web アプリケーションセキュリティ製品 『AppShield™ 4.0』の販売を開始

(株)日立情報システムズ(社長：高須昭輔、本社：東京都渋谷区)は、Web アプリケーションセキュリティの分野で最先端のツールを開発・販売する米国 SANCTUM,Inc. (CEO:Peggy Weigle、本社：米国カリフォルニア州サンタクララ市、以下「サンクタム社」と)とのパートナー提携により、Web アプリケーションセキュリティ製品の最新版『AppShield 4.0』を、5月29日より日本市場向けに販売開始いたします。

『AppShield 4.0』は、昨年10月に販売開始した『AppShield 3.1J²』のバージョンアップ版です。自動ルール設定機能などの追加により、団体・企業等への導入作業が、従来と比べ約3分の1の時間で入るようになりました。また、セキュリティ面、処理性能面でも強化を図っています。

1. 『AppShield 4.0』の新機能（機能強化点）

(1) 導入支援機能の追加

- ・3種類のセキュリティテンプレートによる段階的なポリシー設定
「Basic(基本)」「Intermediate(中)」「Strict(強)」の3つのセキュリティレベルをテンプレートとして用意しています。まず「Basic」を適用することにより、『AppShield 4.0』の導入効果をすぐにあげることができます。そして、業務アプリケーション等への影響を考慮しつつ段階的にレベルを強めていくことで、Webアプリケーションのセキュリティ向上をスムーズに図ることができます。(次頁【図1】参照)
- ・信頼できる端末(操作テスト用端末など)からのデータをもとにした自動ルール設定
Webアプリケーションの業務操作テストを端末から行った際に流れたデータをもとに、Webアプリケーションへの不正なアクセスを防御するためのルールを自動的に作成します。Webアプリケーションのプログラム仕様を分析することなく、ルールの作成が簡単に行えます。
- ・管理者用のログ画面からワンクリックで簡単に新規ルールを設定
ログ画面から業務として通過させるべき通信を選択することで、自動的に新規のルールを設定できます。(次頁【図2】参照)

(2) セキュリティ機能の強化

- ・Webサイトのディレクトリ構造を隠蔽するURL Mapping機能の追加
- ・『Firewall-1』と連携したフィルタリングの実施
- ・クライアント証明書のサポート
- ・Cookieを使用しないポリシーでも適応が可能なCookie less機能の追加

(3) 処理性能の向上

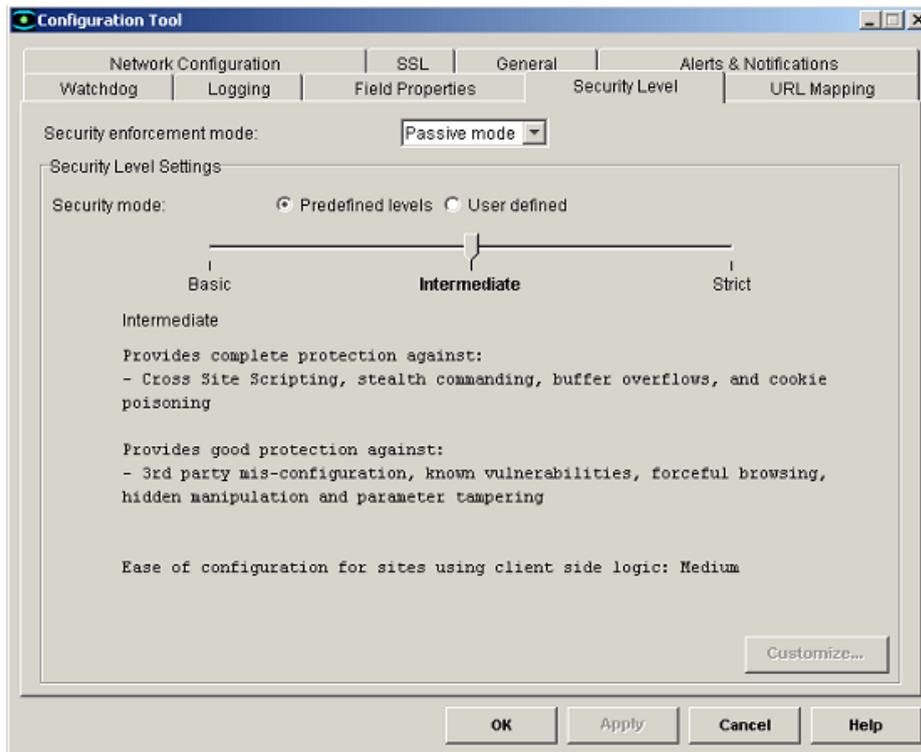
- ・スループットが従来の2倍から4倍に向上したことにより処理遅延時間が2~3msに短縮

(4) 対応プラットフォームの追加(Windows 2000、Solaris8)

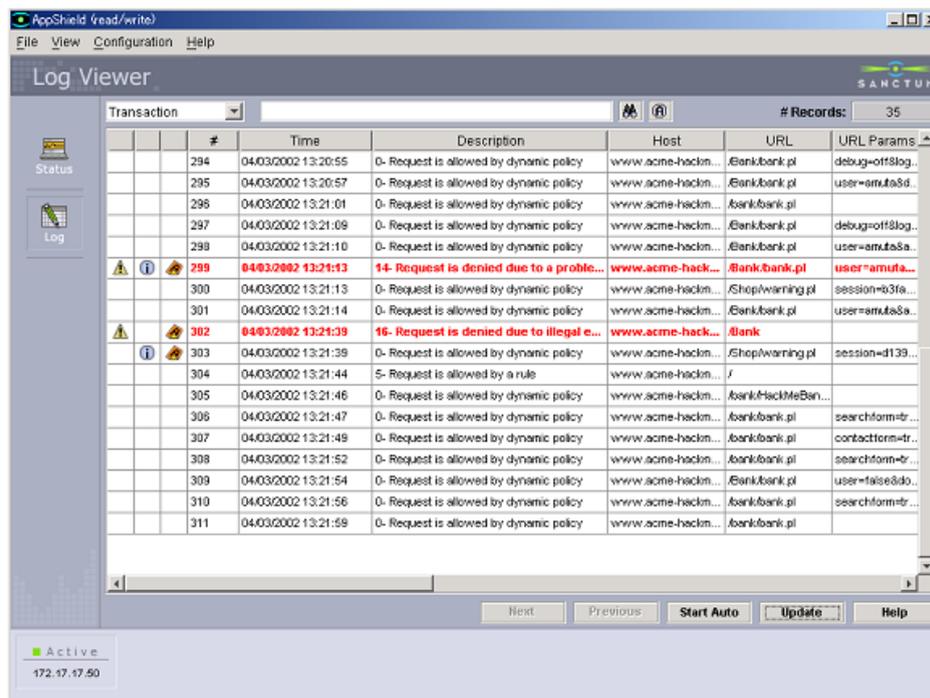
(5) HTTP 1.1 および HTML 4.0 のサポート

(6) ログ管理の強化を図るログ自動保存機能の追加

2. 『AppShield 4.0』 の画面例



【図1】3種類のセキュリティテンプレートによるポリシー設定画面



【図2】ワンクリックで簡単にルールが作成できる管理者用ログ画面

3. Web アプリケーションのセキュリティ対策の現状

今やWebは社会の基盤を形成し、我々のビジネスばかりでなく生活の隅々まで浸透してきていると言っても過言ではありません。しかし、Web ページが改ざんされる事件やWeb サーバを狙ったワームの発生などにより、貴重なデータの盗難だけでなくネットワークの過負荷現象を招く被害が続出しています。

こうした外部からの攻撃を許してしまう大きな原因として、Web アプリケーションが抱えるセキュリティホールが存在が挙げられます。セキュリティホールはサーバ製品だけでなく、業務用に開発したアプリケーションにも存在します。例えその存在を指摘されても、絶えず変更が加えられ、頻繁に更新を迫られるWeb アプリケーションの性質上、セキュリティホールの検証・対応に十分な時間をとることができないため、Web アプリケーションの脆弱性への対策は遅れているのが現状です(*1)。

*1 詳しくは、独立行政法人産業技術総合研究所による「クロスサイトスクリプティング脆弱性(<http://securit.etl.go.jp/>)」報告を参照してください。

4. 『AppShield』の概要

3.1 『AppShield』の機能・特長

『AppShield』は、24 時間稼働のeビジネスやサービスプロバイダーなどが運営するWeb アプリケーションへの攻撃・不正アクセスを自動防御する製品です。主な機能・特長は次のとおりです。

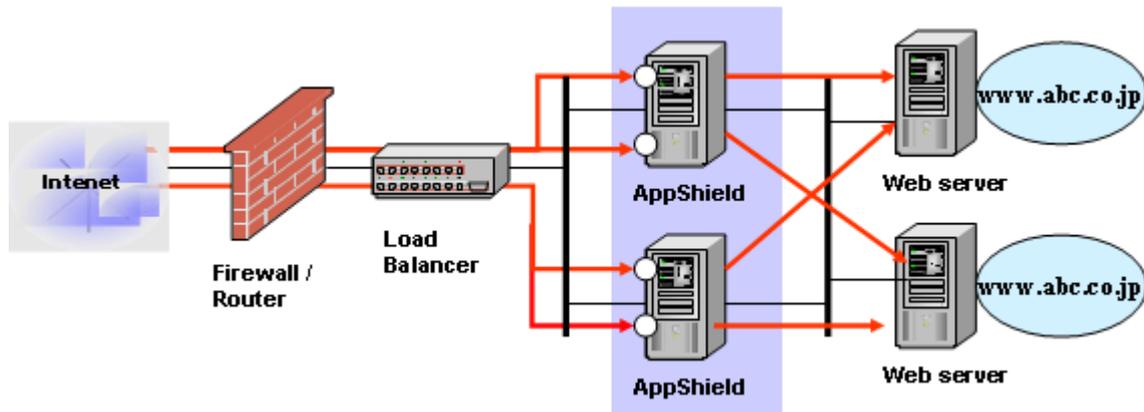
- (1) 既知の攻撃だけでなく、新種のワームなど未知の攻撃からもWebサイトを防御します。
- (2) WebサーバとWebブラウザの間に位置し、WebサーバとWebブラウザ間で通信するデータ(HTML、JAVA等)をリアルタイムに解釈し、正しい通信だけを通すポジティブポリシーの製品です。
- (3) 不正と検出されたリクエストは、Webアプリケーションへ到達する前にブロックし、発信元のWebブラウザへ「警告」を戻します。また、発信元IP アドレスなどの情報を含むログを取り、Webアプリケーションの管理者にもアラート(警告)を発します。

【具体的な機能】

- Webに対する下記の攻撃を防御
Hidden フィールドの操作/パラメータの改ざん/クッキーの改ざん/隠しコマンド/強制ブラウジング/バックドア・デバックオプションの不正利用/クロスサイト・スクリプティング/バッファオーバーフロー/サードパーティ製品の設定ミスを悪用した攻撃/既知の脆弱性
- セキュリティポリシーの自動生成
Webサーバからクライアントに送信するHTMLを解析し、セキュリティポリシーをPolicy Recognition Engine³の技術により自動作成するため、事前の細かな設定をしなくても利用が可能です。
- 未知の攻撃に対する有効性
クライアントからのレスポンスとして何が正しいかをポリシーとして設定するため、未知の不正アクセスに対しても防御が可能です。CodeRedやNimdaのような新種のワームも防御できます。
- 高いパフォーマンス
処理遅延は2～3msで、1日100万アクセス以上を処理する高いパフォーマンスを有しています。
- SNMP・OPSEC対応
SNMPにて管理マネージャとの連携が可能です。

3.2 『AppShield』の構成例

『AppShield』は、FirewallとWebサーバの間に位置し、Webサーバへのアクセスすべてのチェックを行い、不正アクセスを防御します。システム構成が小規模な場合は、Webサーバに同居させることも可能ですが、アクセス数が多く高い信頼性が要求される場合は、ロードバランサと組み合わせることで、信頼性を高めることが可能です。（下図を参照）



アクセス数が多く、信頼性の要求される場合のシステム構成例

5. サンクタム社について

サンクタム社（設立：1997年、本社：米国カリフォルニア州サンタクララ市）は、Webアプリケーションを不正アクセスから守り、悪意あるサイバー犯罪に対し独自技術によって保護するソフトウェアの開発により、Webアプリケーションセキュリティ分野におけるリーダーとして広く認知されています。『AppShield』は、米国では金融業、小売業、官公庁、通信業者等、幅広い顧客層に利用されています。

*サンクタム社については <http://www.sanctuminc.com/> を参照してください。



6. 販売価格、販売目標、販売対象

- (1) 販売価格：260万円（『AppShield 4.0』1パッケージ）、年間保守サービス料金：製品標準価格の20%
- (2) 販売目標：2002年度（1年間）で100ユーザ、10億円の売上を計画
- (3) 販売対象：Webサービスを構築・運用する官公庁、企業など

7. 問い合わせ先

【商品に関する問い合わせ】

商品問合せセンター FainDesk（ファインデスク）

TEL 0120-346-401（フリーダイヤル） 受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00（土・日・祝日は除く）

FAX 03-3770-5712 e-mail faindesk@hitachijoho.com

【発表に関する問い合わせ】

社長室文書広報課 松林

TEL 03-3464-5073 FAX 03-3496-5684（〒150-8540 東京都渋谷区道玄坂1-16-5）

*日立情報システムズが提供するセキュリティソリューションについては、<http://www.shield.ne.jp/top/index.html>を参照してください。

以上

*Sanctum、AppShield、AppScan、Policy Recognition Engine、ロゴは、Sanctum Inc.の商標および登録商標です。

*掲載された社名および製品名は各社の商標または登録商標です。